

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



芽キズのメカニズム



- 芽キズ（芽傷、目傷とも表す）処理は、2月中下旬にブドウ休眠枝上の芽の5～10mm程度先端部を深さ約2mmまで剪定鋏などを使って切り込みを入れる作業です。この作業により発芽率が向上するので新梢数が確保されるとともに樹勢が安定化し、収量が確保されます。
- 植物ホルモンのオーキシンは枝先端で合成され、下方に移動しながら側芽の伸長を抑えます。野菜のインゲンの枝先端を除去するとオーキシンの流れが止まるので、側芽は伸長しますがオーキシンの塗布処理すると側芽の伸長は抑えられます（表）。
- ブドウの芽キズ処理は休眠枝の先端から移動するオーキシンの流れを芽の直前で断ち切り、芽を抑制状態から解放するので発芽しやすくなります（図）。

表 先端除去・オーキシンの塗布処理による側芽伸長への影響（つるなしインゲン）

先端除去	塗布処理	側芽長(mm)
なし	なし	2.3
あり	なし	6.6
あり	オーキシン	3.0

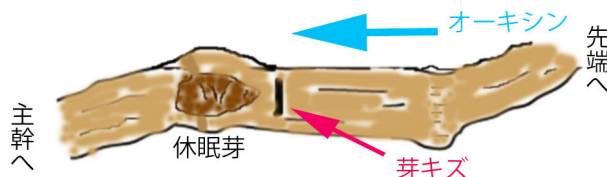


図 オーキシンの流れと芽キズ処理



土壌乾燥に御注意下さい



- 昨年11月以降乾燥状態が続きました。1月中下旬には合計30mm程度のまとまった雨が降り一息つきましたが、今後も注意を払う必要があります（図）。
- 葉からの水分の蒸散のない冬季間に必要な土壌水分量は夏季の1/10以下です。
- しかし、極端に乾燥すると凍干害に弱くなります。また気温が上昇する2月下旬以降は樹体内部で生育開始に向けて樹液流動等本格的な準備が始まります。天候を考慮しながら7～10日おきに2時間程度の定期的なかん水が必要です。

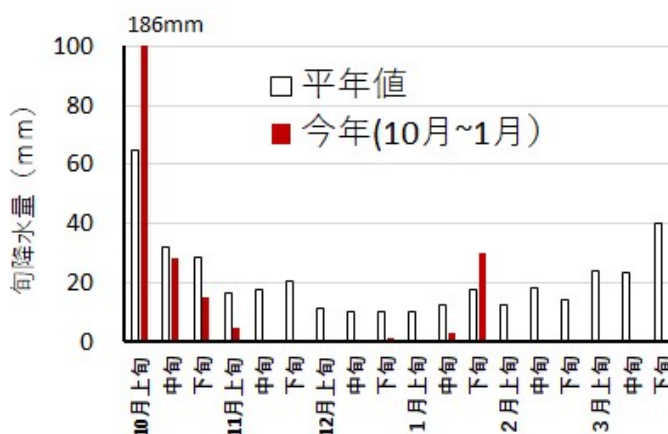


図 冬季間における降水量
(甲府、'20年10月～'21年1月)